

平成21年度事業活動の概要報告

財団法人神戸大学六甲台後援会の平成21年度（平成21年4月1日～平成22年3月31日）の事業報告及び財務諸表につきましては、平成22年6月23日に開催されました理事会・評議員会で監査報告書を含めて報告・承認されたところですが、ステークホルダーの皆様方に当財団の活動内容をご理解いただきたく、ホームページ上で、①学术交流の促進、②学術成果の公開、③教育の充実、④学術基盤の整備、⑤学术交流施設の維持管理という、本財団が行う主要な事業の別に、その内容の概要について、財務諸表（貸借対照表と正味財産増減計算書）の要旨と併せて、ご報告させていただきます。

特に平成21年度は、昨年度から制度の運用を開始した「教育の充実」に向けた「社会科学特別奨励賞」（略称「凌霜賞」）と社会科学系3学部相互履修科目開講支援にかかわる事業に加えて、「学術基盤の整備」に関わる事業として、かねてより懸案であった六甲台講堂改修事業の具体化に伴い、本財団でも、他の個人や団体と協力して、これを支援するため、2か年間にわたり各5千万円（計1億円）を助成することといたしました。

I 事業報告

（金額は千円未満四捨五入）

1 学术交流の促進

20,872千円

(1) 海外研究活動支援（海外研究活動や海外学会派遣等への助成）・・・17,752千円

○経済学研究科

(3,405千円)

- ・前田祐子准教授（平成21年7月～9月、イギリス、オランダ）

目的：「近代化と技術導入」に関する研究及び学生交流事業に関する打合せ

- ・地主敏樹教授・岩壺健太郎准教授（平成21年9月、韓国）

目的：神戸大学・漢陽大学第7回共同研究発表会への出席

- ・石川雅紀教授（平成22年2月～4月、フランス他）

目的：ESDプログラム打合せ、ボスニヤにおけるアスベスト汚染に関する意見交換、及び第3回 Eco-efficiency 国際カンファレンス開催についての打合せ

- ・難波明生准教授（平成22年2月～9月、アメリカ）

目的：計量経済学の理論・応用に関する資料収集及び研究打合せ

- ・藤井大輔研究員（平成22年3月、中国）

目的：「アジアにおける国際金融協力のあり方に関するシンポジウム」の成果を四川大学・武漢大学・華中理工大学に拡大し、相互交流を促進するための面談及び資料収集

- ・萩原泰治教授（平成22年3月～4月、イギリス）

目的：技術革新に関する研究

○経営学研究科

(5,560千円)

- ・黄リン教授（平成21年4月、中国）

目的：「多国籍企業のグローバルマーケティング」国際サミット会議での発表

- ・島田智明准教授（平成21年4月～5月、アメリカ）

目的：POMS国際会議における論文発表及び共著論文に関する打合せ

- ・松尾貴巳准教授（平成21年5月、フィンランド）

目的：ヨーロッパ会計学会（E E A）での学会報告

- ・高田知美准教授（平成21年5月、フィンランド）
目的：ヨーロッパ会計学会（E E A）での学会報告
- ・堀口真司准教授（平成21年7月、オーストリア）
目的：I S A国際会議への出席、情報収集及び意見交換、並びにI P A国際会議への出席
- ・鈴木竜太准教授（平成22年3月～23年3月、アメリカ）
目的：組織行動論に関する在外研究
- ・堀口真司准教授（平成22年3月～23年3月、イギリス）
目的：会計制度の学際的研究

○法学研究科 (4,753千円)

- ・中川丈久教授（平成21年8月、フランス、イギリス）
目的：グローバル化時代の民主主義論の変容に関するヨーロッパ調査
- ・安井宏樹准教授（平成21年9月～22年9月、ドイツ）
目的：福祉レジームと政党政治の変容に関する日独比較の研究
- ・島並 良教授（平成21年12月～22年2月、オーストラリア）
目的：知的財産法の日豪比較と経済分析に関する研究

○国際協力研究科 (2,034千円)

- ・金子由芳教授（平成21年3月～22年1月、アメリカ）
目的：自利的な法形成をめぐる日本・米国・世銀の法整備支援の比較研究
- ・柴田明穂教授（平成21年9月～22年1月、オーストラリア）
目的：南極条約体制における国際法形成過程の正当性の研究
- ・斉藤善久准教授（平成22年2月～4月、ベトナム）
目的：ベトナム労働法の新展開に関する研究調査

○経済経営研究所 (2,000千円)

- ・上東貴志教授（平成21年7月～8月、フランス）
目的：最適化理論に関する研究及び資料収集
- ・大久保敏弘准教授（平成22年1月～8月、イギリス）
目的：国際経済・貿易に関する最新研究

(2) 学会・シンポジウム等開催支援（国内学会・国際学会・シンポジウム・フォーラム・セミナー・ワークショップ等開催への助成）・・・・・・・・・・3,120千円

○経営学研究科 (820千円)

- ・第66回ワークショップ（平成21年6月7日、参加者数64名）
テーマ：ワーク・ライフ・バランスを考える
- ・第67回ワークショップ（平成21年9月27日、参加者数75名）
テーマ：サービス・イノベーションにおけるCRMの方向性
- ・第68回ワークショップ（平成21年12月6日、参加者数59名）
テーマ：CSR経営の最前線：企業が果たすべき責任とは何か
- ・第69回ワークショップ（平成22年3月14日、参加者数122名）
テーマ：サービス・イノベーションにおける人材育成
- ・第20回シンポジウム（平成21年11月29日、参加者数200名）
テーマ：愚直の経営

○国際協力研究科 (300千円)

- ・環境・開発経済研究会
①平成21年6月19日（参加者数6名）

テーマ：インド・アンドラプラデーシュ州での幼児教育の女性自助グループへの影響
②平成21年10月29日～30日（参加者数40名）

テーマ：経験的発展の経済における近年の動向：農村部貧困への取り組み
③平成22年1月22日～23日（参加者数9名）

テーマ：中間所得国における成人死亡率の危険性について：コスタリカ
④平成22年1月29日（参加者数5名）

テーマ：携帯電話の導入とそれに伴う個人ネットワークへの影響：ウガンダ事情より
○国際協力研究科と経済経営研究所（共催）（2,000千円）

・国際カンファレンス（平成21年7月13日～14日、参加者数26名）

テーマ：アフリカにおける民族の多様性と経済的不安定
：調和の取れた開発のための政策の方向性

・国際シンポジウム

（平成21年7月13日、参加者数91名、招聘研究者数19名（うち海外15名））

テーマ：多様化する世界とグローバル経済危機—開発途上国の諸課題と国際社会の役割—

2 学術成果の公開 4,171千円

(1) 学術研究成果刊行支援（学術研究成果刊行への助成）・・・・・・・・・・ 3,500千円

○経済学研究科 (2,400千円)

・天野雅敏(著)『戦前日豪貿易史の研究』勁草書房

・石黒 馨(著)『インセンティブな国際経済学』日本評論社

○国際協力研究科 (1,100千円)

・高橋基樹(著)『開発と国家』勁草書房

・田中 悟(著)『会津という神話』ミネルヴァ書房

(2) 海外学術雑誌投稿支援（海外学術雑誌投稿への助成）・・・・・・・・・・ 620千円

○経営学研究科

・教員の研究論文海外投稿支援（4名） (620千円)

桑原哲也教授、原田 勉教授、三古展弘准教授、栗木 契准教授

(3) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51千円

・中山正實画伯作品デジタル化作業支援 (51千円)

3 教育の充実 16,231千円

(1) 社会科学特別奨励賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10,247千円

（学部学生と大学院学生（博士課程前期課程等）の成績最優秀者への奨学金支給）

・学部2年生：Tserenkhoo Suvd（経済）、垣見玲子（経営）、秋本和哉（法）

・学部3年生：千古和也（経済）、幡生はるか（経営）、佐野 歩（法）

・学部4年生：岡本鉄平（経済）、前田枝里子（経営）、大場明香（法）

・博士課程前期課程1年：Nguyen T. Giang（経済）、川村 望（経営）、
李 玲君（法）、篠原光宏（国協）

・博士課程前期課程2年：松岡佑治（経済）、Pongtanalert Kritinee（経営）、
貫田一馬（国協）

・専門職学位課程3L： 大道若菜（法）

(2) 社会科学特別奨励賞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,007千円

（大学院学生（博士課程後期課程）の海外研究活動支援）

経済学研究科： 小田原彩子、飯田健志
 経営学研究科： 中村絵里、中岡孝剛、酒井裕規、森村文一
 国際協力研究科：光森祥子、干 琳秀

(3) 相互履修科目開講支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1,069千円

他学部学生向け増設専門講義科目

経済学部：エッセンシャル・ミクロ経済学、エッセンシャル・マクロ経済学
 経営学部：エッセンシャル経営学、エッセンシャル会計学
 法学部： エッセンシャル民法、エッセンシャル商法

(4) 田崎奨学基金による奨学金支給・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 300千円

国際協力研究科博士課程前期課程：山田 文
 国際協力研究科博士課程後期課程：咲川可央子、河合沙織

(5) 大学院学生に対する支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,607千円

○経済学研究科 (560千円)

・久研究奨学基金による海外研究活動支援
 経済学研究科博士課程後期課程：海野晋吾

○法学研究科 (2,048千円)

・大学院学生の海外研究活動支援（3名）
 法学研究科博士課程後期課程：Erika Louise Bastos Calazans、儲 翔、
 クロス京子
 ・エクスターンシップ実施支援（65名）

4 学術基盤の整備 50,000千円

(1) 六甲台講堂改修事業に対する助成・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50,000千円

5 学術交流施設の維持管理 5,959千円

(1) 学術交流施設維持支援（学術交流施設の維持・管理等への補助）・・・・5,959千円

・「ロイ・スミス館」の老朽化箇所に対する修理の実施他

II 財 務 諸 表

平成21年度 貸借対照表の要旨（平成22年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	59,885,959
有価証券	96,105,174
流動資産 合計	155,991,133

2. 固定資産	
(1) 基本財産	510,436,270
(土地)	(9,234,000)
(建物)	(1,202,270)
(投資有価証券)	(500,000,000)
(2) 特定資産	1,059,540,092
(久研究奨学特定資産)	(100,000,000)
(学術教育助成特定資産)	(959,540,092)
(3) その他固定資産	285,834
(什器備品)	(285,834)
固定資産 合計	1,570,262,196
資産 合計	1,726,253,329
II 負債の部	
1. 流動負債	
(1) 預り金	43,738
流動負債 合計	43,738
2. 固定負債	
(1) 退職給付引当金	1,740,000
固定負債 合計	1,740,000
負債 合計	1,783,738
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	1,059,540,092
(うち特定資産への充当額)	(1,059,540,092)
2. 一般正味財産	664,929,499
(うち基本財産への充当額)	(510,436,270)
正味財産合計	1,724,469,591
負債及び正味財産合計	1,726,253,329

平成21年度 正味財産増減計算書の要旨 (平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位：円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	14,415,706
(基本財産受取利息)	(14,415,706)
特定資産運用益	40,973,777
(特定資産受取利息)	(31,413,209)
(特定資産受取配当金)	(9,560,568)
受取寄附金	7,150,000
(受取寄附金振替額)	(7,150,000)
雑 収 益	486,326
(受取利息)	(37,826)
(雑 収 益)	(444,500)

	63,021,809
(2) 経常費用	
事業費	97,232,363
(学術交流の促進に対する助成)	(20,871,500)
(学術成果の公開に対する助成)	(4,170,670)
(教育の充実に対する助成)	(16,230,696)
(学術基盤の整備に対する補助)	(50,000,000)
(学術交流施設の維持管理)	(5,959,497)
管理費	11,188,794
経常費用合計	108,421,157
当期経常増減額	△45,399,348
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
株式時価評価差額	48,279,928
公社債売却益	6,652,514
経常外収益合計	54,932,442
(2) 経常外費用	
株式時価評価差額	14,211,591
公社債売却損	25,110,804
支払利息	1,289,793
経常外費用合計	40,612,188
当期経常外増減額	14,320,254
当期一般正味財産増減額	△31,079,094
一般正味財産期首残高	1,655,548,685
一般正味財産修正額	△959,540,092
一般正味財産期末残高	664,929,499
II 指定正味財産増減の部	
受取寄附金	7,150,000
一般正味財産への振替額	△7,150,000
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	100,000,000
指定正味財産修正額	959,540,092
指定正味財産期末残高	1,059,540,092
III 正味財産期末残高	1,724,469,591

(注1) 主要な内訳項目を()内に掲記している。

(注2) 事業費の事業別明細については、「I 事業報告」を参照されたい。

(注3) 管理費については、各事業に配賦せず一括掲記している。